

<参考図書>

漢字・漢字文化を理解するための参考図書をご紹介します。

○中国古典・漢文

1) 吉川幸次郎『中国文学入門』

(講談社学術文庫 1976 年)

(原著は弘文堂[アテネ文庫]1951 / 清水弘文堂書房 1967)

中国文学全般について、各時代ごとに代表的な作品を解説し、それらを世界での文学の流れに位置づけて文化的意義を考察する。稀代の碩学による平易な解説書として、これまでに多くの読者をもつ。

2) 鎌田正監修・江連隆・塚田勝郎・若林力他共編『漢文名作選』

(大修館書店 1984 年～)

中国古典から章句を選び、返り点・送り仮名つきの原文と書き下し文を掲げ、それぞれに解釈・解説を施す。名言も付す。

3) 諸橋轍次『莊子物語』

(講談社学術文庫 1988 年)

(元版は 1964 年)

故事や名言を豊富にちりばめながら、中国古代思想を解説。独特の語り口で、諸橋博士が身近に感じられる 1 冊。

○漢字全般

1) 藤枝晃『文字の文化史』

(岩波書店 1971 年)

漢字が書かれた、または印刷された歴史を、ハードとソフトの面から詳細に、かつわかりやすく解説した名著。

2) 阿辻哲次・一海知義・森博達共編『何でもわかる漢字の知識百科』

(三省堂 2002 年)

文字・音韻・文学に関する種々の事項についてまとめた「百科編」と、漢字の読み方・使い方のわかる「語彙編」の二部構成。

3) 加納喜光『漢字語源語義辞典』

(東京堂出版 2014 年)

日常使用する漢字を対象に、語源(由来)と語義(意味)を徹底的に解説。

4) 沖森卓也・笹原宏之共編『漢字』(日本語ライブラリー)

(朝倉書店 2017 年)

漢字の歴史、文字としての特徴、アジアの各地域で言語に合わせた独自の発展についてそれぞれの専門家が概観する。

○中国の漢字

1) 阿辻哲次『図説漢字の歴史』

(大修館書店 1989 年)

中国での漢字の歴史を、書写材料上に記録された形を示す写真を多数掲載することでたどる。

2) 財前謙『手書きのための漢字字典』

(明治書院 2009 年)

明朝体と手書きの楷書とは大きな違いがある。手書きの規範と理論を示す。

○日本の漢字

1) 笹原宏之『日本の漢字』

(岩波新書 2006 年)

日本の漢字に関して、歴史的な変遷と多様な現状について実例を挙げて記す。

2) 安岡孝一『新しい常用漢字と人名用漢字漢字制限の歴史』

(三省堂 2011 年)

2010 年に改定された常用漢字表や人名用漢字など、漢字施策の歴史と運用の実態を解き明かす。

○日本の漢語

1) 岸田知子『漢語百題』

(大修館書店 2015 年)

中国古典を縦横に引用しながら、身近な漢語の由来や使い分けなどを平易に解く。

2) 木村秀次『身近な漢語をめぐる』

(大修館書店 2018 年)

漢和辞典編集・教育・国語施策に携わった著者による、生活に息づく漢語をめぐる考察。熟字訓や漢語オノマトペも紹介する。

○漢和辞典関連

1) 紀田順一郎編『『大漢和辞典』を読む』

(大修館書店 1986 年)

60 年以上に及ぶ編纂物語からさまざまな活用法まで、諸橋大漢和の広大な世界を知るのに最適。

2) 円満字二郎『漢和辞典に訊け！』

(ちくま新書 2008 年)

漢和辞典の使い方を説明しつつ、漢字に関する基礎知識を合わせて語る。

3) 各種漢和辞典の付録

漢字の形・音・義について詳しい解説がある。熟読して学習に活かしたい。

○『大漢和辞典』と諸橋博士関連

1) 鎌田正監修、漢学の里・諸橋轍次記念館編『諸橋轍次博士の生涯』(1992 年)

風光明眉な下田村を終生愛してやまなかった諸橋の生涯を伝える書。

2) 鎌田正『大漢和辞典と我が九十年』

(大修館書店 2001 年)

『大漢和辞典』編集作業に諸橋の片腕として初めから携わった著者の自伝。

3) 諸橋轍次『大漢和辞典デジタル版』

(大修館書店 2018 年)

親字 5 万、熟語 53 万を収録した“諸橋大漢和”待望のデジタル版。検索機能が充実。(検定試験の出題範囲が『大漢和辞典』全体というわけではありません。)

< 推薦図書(漢字の形音義) >

漢字文化理解力検定委員会の先生推薦の図書をご紹介します。

○漢字全般

・中国の漢字

1)大島正二『中国言語学史(増訂版)』汲古書院、1998年。

漢字の形・音・義を研究する「小学」という分野について、研究対象となる文献の基礎的情報やその研究内容について解説する。

2)大西克也、宮本徹編著『アジアと漢字文化』放送大学、2009年。

放送大学の教材。特に戦国時代の文字使用について詳しく、他書では得られない情報が多い。

3)貝塚茂樹、小川環樹編『日本語の世界 3—中国の漢字』中央公論社、1981年。

当時の一流の研究者たちによって、漢字の形音義それぞれについての詳細に概略が述べられている。

4)頼惟勤著、水谷誠編『中国古典を読むために—中国語学史講義』大修館書店、1996年。

著名な中国語音韻学者であった頼惟勤(1922-99)氏の講義録。中国語学史について、著者の優れた観点を交え平明な語り口で解説されている。

5)裘錫圭著、稲畑耕一郎・崎川隆・荻野友範訳『中国漢字学講義 (東方学術翻訳叢書)』東方書店、2022年。

裘錫圭(北京大学中文系教授)氏の名著『文字学概要』(商務印書館、1988年)の日本語訳。出土文字の概略や造字法などについて専門的に記述する。

6)大島正二『中国語の歴史—ことばの変遷・探究の歩み』大修館書店、2011年。

中国語学、特にその中でも漢字の歴史的発音を明らかにする音韻学という分野に関する良質な入門書。

7)洪誠著、橋本秀美・森賀一恵訳『訓詁学講義—中国古語の読み方』アルヒーフ、2003年。

日本語で読める数少ない訓詁学の教科書。漢字の形・音・義それぞれの相関や漢字研究上の概念について、豊富な用例とともに詳しく解説する。内容は比較的高度。

・日本の漢字

1)沖森卓也・笹原宏之・常盤智子・山本真吾著『図解 日本の文字』三省堂、2011年。

日本の文字全般についての重要項目がコンパクトにまとめられている概説書。第二章「漢字」で漢字の形音義についての解説がある。

2)湯沢質幸『漢字は日本でどう生きてきたか』開拓社、2017年。

日本における漢字使用や日本漢字音について身近な用例をもとに解説する。

3)日本語学会『日本語学大辞典』東京堂、2018年。

4)日本漢字学会『漢字文化事典』丸善、2023年。

5)笹原宏之編著『方言漢字事典』研究社、2023年。